

強力

ラクラク!簡単!土づくり!

カILZNC-R®



複合微生物資材
NET. 10kg

未熟有機物を活かす

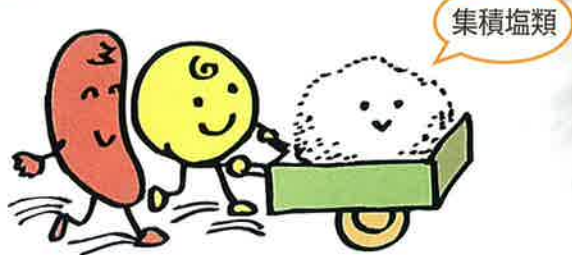
すき込みの土中発酵促進材



リサーチ 酵産株式会社

未熟有機物+カルスNC-Rこそが 土と作物をつくるのです

堆肥、モミガラ、緑肥、残さも
すべて生のまますき込みOKの
超省力型土づくり資材です。



健康な土壌になります



土づくりの主役は微生物

生・未熟の有機物と一緒に直接ほ場で使用することで効果を発揮します。土中で微生物のエサとなる未熟有機物を分解しながら増殖し、微生物相の豊かな土に変えていきます。

本来は危険とされる生・未熟の有機物をそのまま利用しても、カルスNC-Rの効果で作物には影響をまったく与えず、堆肥づくりの手間を大幅に省き土中堆肥化することができます。

また、作物の栽培と同時に土中堆肥化させることで、分解時に得られる有益物質の作用（イラスト参照）で作物の節間をつめ、茎を太くし、根毛の発育を促進させるなど、さまざまな効果が確認されています。

カルスNC-Rの効果

- 1 有機物の発酵促進、堆肥づくりの手間を大幅に削減
- 2 根圏での微生物環境を改善
- 3 通気性・保水性・排水性の向上
- 4 CECの改善〈保肥力の向上、肥効を改善〉
- 5 集積塩類の分解〈ECの低下〉、pHの安定
- 6 団粒構造の形成、地温の上昇
- 7 化学肥料・農薬の使用量を軽減
- 8 作物の樹勢回復と発根促進
- 9 品質や食味の向上・増収



カルスNC-R使用量 (10アール当り)

施設野菜・花卉	3~4袋 (30~40kg)
露地野菜・牧草	2~3袋 (20~30kg)
果樹・お茶	2~3袋 (20~30kg)

<保管上の注意>

- ・未開封の製品は通常の倉庫保管であれば、製造年月から2年間はまったく問題ありません。開封後の保管方法は袋の口をヒモでしっかりと結び、ひっくり返して置くか、または粘着テープでよく密封してから冷暗所に保管するなどして、できるだけ6ヵ月以内に使用してください。
- ・肥料・農薬ではありませんが、事故防止のため幼児の手の届かない場所に保管してください。

有機物投入の目安 (10アール当り)

有機物の種類	有機物の量	硫安 (炭素率調整)	米ヌカ (増量材)	有機物の分解期間
1 緑肥 (ソルゴー)	全部	不要	200~300kg	1~2ヵ月
2 作物残さ	全部	不要	200~300kg	1~2ヵ月
3 生モミガラ	1トン (約8反~1町歩でとれる量)	40kg	200~300kg	6~10ヵ月
4 畜ふん生堆肥 (オガクズ・チップ モミガラ入り)	5~7トン	不要	200~300kg	6~10ヵ月

※左記の土中分解効果を利用するために、作物の生育期間と有機物の分解期間をできるだけ一致させます。

切り返しのいらぬ土中ボカシ

米ヌカなどの有機質を直接ほ場にすき込み微生物の力で元肥 (ボカシ肥) とすることもできます。その場合、ボカシ材料の総重量に対して5%以上のカルスNC-Rを添加し、すべてをすき込みます。(すき込み後、10日以上経てば播種・定植が可能となります。)

カルスNC-R使用手順

1 未熟有機物を散布

(最も効果的な有機物は、上記一覧の3か4)



2 カルスNC-R、元肥などを散布

(上記一覧3の場合は、窒素分の添加を必ず実施!)



3 ただちにロータリーですき込む

(散布後、2~3日以内)



4 1~3週間おいて播種・定植

(微生物が土と有機物になじむ準備期間)



◆使用上のポイントと注意点

1 有機物は生・未熟、または中熟で！

完熟堆肥ではカルスNC-Rの効果は発揮できません。

2 病気のついた作物残さもすべてすき込みOK！

作物残さも大切な有機物です。
病気のついた残さでも未熟有機物(モミガラなど)と一緒にすべてをすき込み害なく土中分解できます。

3 石灰窒素の使用はさける！

石灰窒素は殺菌作用があるため使用しないでください。ただし、他の石灰類は使用できますがカルスNC-Rとの増量(混合)使用はさけてください。(使用する場合は別々にほ場へ散布。)

4 窒素分の添加を忘れずに！

カルスNC-R使用の際は、元肥としての窒素のほかには有機物分解時に必要な窒素分を必ず添加します。
(これを忘れると、作物が窒素欠乏になる恐れがあります。)



5 元肥は今まで通りに！

元肥はその作物の種類や品種に応じて、基本的には今まで通りの施肥を行います。有機物分解のための窒素を添加しても、元肥の窒素は減らさないでください。

6 土壌水分はタップリと！

カルス菌を活発に働かせるために、土壌水分が少ない時はすき込み後、灌水を行ってください。
(特にハウス内で著しく乾燥する場合は、必ず灌水をしてください。)

7 温度に影響はありません！

カルス菌の活動に最適な地温は15～35℃です。なお、これ以外の地温で使用されても効果に問題はなりません。(寒冷地や太陽熱消毒との併用でも利用できます。)

それぞれのほ場条件に合った施用方法もありますので、ご使用前に取扱店か当社までご相談ください。

■製造元



リサール酵産株式会社

〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町 1-505-1
TEL 048-668-3301(代) FAX 048-668-3315
<http://www.resahl.co.jp/>

 **0120-120-612**